

新米シーズン迎える

管内では8月中旬より稲刈りがスタート。今年産は高温の影響で生育が前進し、平年より少し早い収穫となりました。面積あたりの収量は多くなる見込みです。紀州地域では、主に「キヌヒカリ」が生産されており、全体の6割を占めていますが、近年の夏場の高温の影響で心白粒の発生が多く見られるため、高温に強い「にじのきらめき」が有望品種として生産が増えています。

紀州地域本部 NEWS & TOPICS

また、農産物検査もスタートしました。検査では農家の方が出荷したお米からサンプルを取り出し、目視で粒の大きさや色沢等の確認、専用検査器で水分量を測定し、この結果から

等級を格付けし出荷を行いました。今年の出荷予約数は約500トンの見込みとなっています。



8/20 女性会 ちゃぐりんフェスタ in 大阪



8月20日、女性会員とその家族（小学生）を対象としたちゃぐりんフェスタを開催し、6組（17名）の参加がありました。はじめに、堺・緑のミュージアム ハーベストの丘を訪れました。はにわづくり体験、芝すべり、動物たちとのふれあいなどを楽しみ、親子で楽しいひとときをすごしていただきました。午後からはコープ・ラボ たべる*たいせつミュージアムを訪れ、「食」にまつわる学習・体験を行いました。「人体トンネル」などで楽しく学ぶことができ、子どもたちは終始笑顔が絶えない様子でした。ご参加いただいたお子さまには「食」と「農」が学べるちゃぐりん誌も配布しており、後日、感想文を提出していただきました。



9/3~9/5 フレッシュマートで 職場体験を受け入れ

9月3日から5日までの3日間、フレッシュマート特産品直売所にて印南中学校で実施されている職場体験を受け入れました。2年生2名に参加いただき、花き類の包装作業、商品の整理、レジの補助などを体験していただきました。参加した生徒は「花が好きなので花に触れられる仕事ができて楽しい!」などと話し、熱心に業務に取り組んでくれました。



直売所担当者は「働くことの楽しさや挨拶の大切さなどを学んでほしい。また、地元で働くことの良さも感じていただければ嬉しいです」と話します。

第1回 「紀州フレンズ」 ぶどう狩り&BBQ交流会を開催!

紀州地域本部では組合員の皆さまにJAについてより深く知ってもらい、組合員としての在り方についても理解を深めていただきたいという思いから「紀州フレンズ」を募集しました。今年は9家族（計30名）のご参加をいただき、年間を通じて5回にわたり、JAならではの様々な活動を予定しています。

9月6日には第1回目の企画として、印南町のサンシャイン牧場にてぶどう狩り体験&BBQ交流会を開催しました。採りたて新鮮なぶどうを存分に味わいながら、楽しんで収穫していただきました。また、BBQでは組合員ご家族同士で交流を深めるなど、充実した時間を過ごしました。



8/29

紀州柑橘部会 通常総会

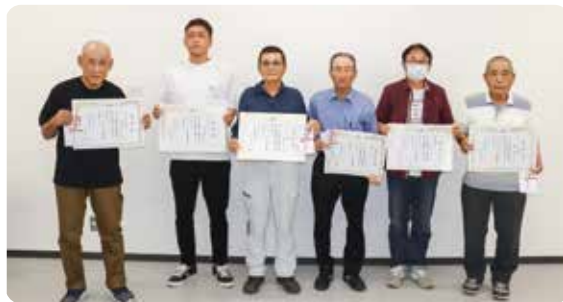
8月29日、紀州選果場にて紀州柑橘部会の通常総会が行われ、部会員35名が出席し、全ての議案が承認されました。その後、高品質生産に取り組み優秀な成績をおさめられた優良出荷者の表彰も行われ、品目別で6名が表彰されました。

紀州柑橘部会役員名簿

部会長	鳥居 稔さん	会計	尾崎 敬之さん
副部会長	川口 拓洋さん	監事	阪東 祐司さん
副部会長	山本 光重さん	監事	山中 孝次さん

受賞者一覧

ゆら早生の部	玉置 新次さん	ポンカンの部	芋原 隆さん
早生みかんの部	永尾 善彦さん	八朔の部	庄司 富一さん
不知火の部	山本 昇さん	セミノールの部	中井 健一郎さん



9/9

温州みかん
販売分科会を開催

9月9日、ゆら集荷場にて温州みかん販売分科会を開催し、市場5社、柑橘部会役員4名、JA役職員10名が出席しました。はじめに本店販売部より、他産地の果物や温州みかんの収量・出荷時期について説明がありました。続いて、紀州地域本部の営農指導員からは、糖度・酸度や病害虫の発生状況など生育概況の報告があり、販売担当者からは出荷量や出荷時期の見込みについて報告がありました。また、スタンドパックやポスターなど販売時に使用する資材の紹介も行いました。最後には市場関係者との意見交換を行い、リレー出荷に向けて



適切な出荷時期を慎重に見極めていくことや、消費者から寄せられた食味に関するご意見などを共有しました。

9/5

YN26 目揃え会を実施！

9月5日、紀州選果場とゆら集荷場の2か所にてYN26の目揃え会が開催され、部会員約60名が参加しました。営農指導員より生育概況の説明、販売担当者より出荷規格や集荷日程の説明があり、今後の栽培管理や出荷規格について確認しました。最後にはサンプルを手に取り、等級や出荷区分について入念に確認を行いました。



YN26 出荷スタート

紀州選果場では9月10日から9月下旬にかけて極早生みかん YN26 の選果作業を行い、東京や大阪の市場を中心に全国へ出荷を行いました。今年産は夏場に雨が少なかったことで糖度が高くなり、酸味も程よく残ったため、濃厚な味わいに仕上がりました。また、糖度10度以上のものは県オリジナルブランド『紀のゆらら』として出荷を行いました。



9/3・9/4

第64回全国カンキツ研究大会 紀州地域などを視察

第64回全国カンキツ研究大会が和歌山県で9月3日～4日の2日間開催され、県内を含め全国から約500名の生産関係者が出席しました。3日は研究大会として田辺市の紀南文化会館で事例発表や大会決議により連携意識と生産意欲を高め、4日はグ

ループに分かれて県内4か所の現地視察を行いました。紀州地域本部管内には約160名にお越しいただき日高川町若野のゆら早生圃場を視察していただきました。両日とも熱心な質疑応答や意見交換などにより交流を深め充実した時間を過ごしました。



紀州選果場にもお越しいただき、日高川町の久留米町長と弓倉副本部長から挨拶と紀州地域本部管内の紹介を行いました。



圃場では近田営農指導員から栽培に関する説明を行いました。

第2回講座

女性倶楽部

パール Pearl

夏の疲れを吹き飛ばす
本格スパイスカレー作り！

8月25日、和佐の農産物加工施設にてスパイス食堂「javajava」の立畑千賀子さんを講師に迎え、スパイスカレー料理に挑戦しました。クミン、コリアンダー、ターメリックなど様々なスパイスを好みのバランスで配合し、それぞれのカレーを完成させました。スパイスを使った副菜も作り、ピリ辛&絶品の味わいに「おかわり！」する人も。スパイスの健康効果を堪能しながら楽しいひとときを過ごしていただきました。



第2回講座

男性講座「粋」くらし道場

手漉き和紙を学びながら
伝統工芸を学ぼう！

9月2日、有田川町の「体験交流工房わらし」にて、紀州手漉き和紙「保田紙」の伝統を学びました。和紙の歴史や原料、工程について説明を受けた後、水を張った漉き舟に原料を入れ、専用の簀で紙を漉きあげる「紙漉き」作業を体験しました。その後、和紙を使ったオリジナルうちわ作りも行い、参加者それぞれがこだわりの一枚を作り上げました。最後には有田川町の名所「あらぎ島 棚田」の見学も行い、充実した一日となりました。



第3回講座

ヴィーナス

女性大学 “Venus”

ポリフェノールたっぷり
カカオ豆からチョコレートを作ろう

9月9日、和佐の農産物加工施設にて「道草屋」の片切秀典さんを講師に迎え、チョコレート作りを行いました。チョコレートの歴史や特徴について学んだ後、本場のカカオ豆を使用し、焙煎、すり潰し、砂糖やバターの調合などを行い、自分の好きな味に仕上げていきました。参加者はカカオ豆の豊かな香りに癒されつつ、初めてとなるチョコレート作りに、「自分で作れるとは思ってなかった」などと驚いている様子でした。



敬老の日 ご長寿おめでとうございます！

9月15日は敬老の日でした。紀州地域本部では、管内の99歳以上の組合員（組合員ご家族）34名を表敬訪問しました。花束と記念品を贈呈し、ご長寿のお祝いをさせていただきました。



瀧本 文吉さん 106歳
(梅の郷支店管内)



堀口 菊栄さん 99歳
(印南支店管内)



保手 リウさん 101歳
(名田支店管内)

(ゆらっ子)

ファーマーズマーケット

さわやか国高 からののお知らせ

地元新米



高糖度のゆらっ子
ブランドは
県外でも大人気！
予約発送受付中です！

ゆらっ子みかんの中でも糖度
センサーで11度以上の
ミカンがゆらっ子

10月10日頃より販売開始！



食欲の秋！
新米は甘味と旨みが
やっぱりちがう！



9月より好評販売中！

きぬひかり、にじのきらめき、
こしひかり等
各種5Kg、3Kg



うめ

10月の梅園管理

●元肥（9月に施用していない園）

・来年の貯蔵養分を蓄積するための重要な時期です。

・この時期の施用は、主に根に移行した後、翌年の果実・葉・新梢・根などに利用されます。

・施肥名・施肥量については、必ずJA営農指導員にご確認ください。

●白紋羽病防除

・枯れた樹の根は掘り上げて園外に搬出してください。

・定植時には、苗木にフロンサイドSC 500倍液を1本当たり50～100L 灌注してください。

●新植・補植穴の準備（1穴当たり）の施肥例

- ・苦土セルカ2号（2kg）または苦土石灰（2kg）
 - ・ハイフミン（20kg）またはアツミン（2kg）
 - ・梅一発（14・11・13）1～2kg
- ※施肥後は土とよく混和しておきましょう。

●整枝・剪定

剪定の基本順序

1. 主枝（1番太い）の先端から行う

2. 亜主枝・側枝も同様に行う
3. 細かい部分にとらわれず、不要な太枝を優先的に間引く
4. 主枝は2～3本、亜主枝はそれぞれ2～3本を目安にする

幼木（8年生）（樹形づくり）

・開心自然型を基本として、主枝・亜主枝の確立を図りながら、枝の先端を下垂させない樹形づくりを行います。特に、同年枝（車枝）を整理し、枝の切り返しに努めます。

成木（樹勢維持・高品質果実生産）

- ・樹間7～8m、10a当たり16～20本を目標し密植を避けましょう。
- ・太枝を減らし内部に日光を入れ、結果枝を増やしてください。
- ・古い結果枝（4年以上）は更新しましょう。
- ・毎年着果の多い枝は切り返し剪定で着果を制限してください。
- ・主枝・亜主枝の先端は必ず切り返してください。
- ・側枝は3年以上経った枝は新しい緑枝へ更新しましょう。

樹勢の弱い樹

- ・徒長枝の発生が少なく細枝が多い場合は、切り返し・切り戻しで若枝を更新しましょう。
- ・主枝・亜主枝は先端を切り戻し、細枝も2分の1程度に剪定して樹勢を回復させてください。

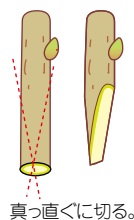
●接木（9月～10月下旬）

- ・穂木：20年以上で毎年結実良好な樹から、30cm程度の充実枝を採取しましょう。
- ・台木：接木しやすいように下枝を

除去し、3日前に十分灌水してください。

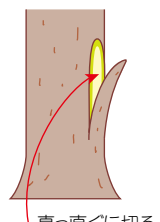
手順

①穂木の切り方



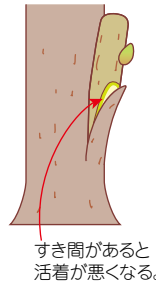
真っ直ぐに切る。

②台木の切り方



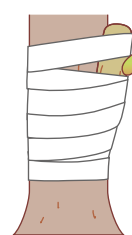
真っ直ぐに切る。

③接木



すき間があると活着が悪くなる。

④テープを巻く（メデール）



- ・穂木の根元を3回以上固く巻く
- ・芽の上は1重に巻く

果樹柑橘



本格的な温州みかんの収穫時期を迎えました。収穫前にもう一度、極

接木後の管理

- ・10日ほどで穂木が茶褐色になったら再接木してください。
- ・活着後、12月末～1月末までに接木部より上で剪定し、苗床へ移植してください。

小果や傷果等の樹上選別を行ってください。

本年は、日焼け果は多い傾向です。収穫前に樹上選果で落としてください。

●仕上げ摘果

早生、中生については仕上げ摘果の時期です。

小玉果、奇形果、傷果、病害虫被害果等を摘果してください。

着果量が少ない樹では大玉果になっても摘果せず秋芽の発生がなくなる10月中旬以降まで遅らせてください。

●早生の収穫前の腐敗防止剤散布

いよいよ11月から早生みかんの収穫が始まります。したがって収穫の前日までにベルフート水和剤2,000倍（収穫前日まで3回散布以内）、ペンレート水和剤4,000倍（収穫前日まで4回散布以内）の散布を行ってください。また、収穫が長期にわたる場合、秋雨によって効力が低下する場合がありますので農薬は使用回数制限内で再散布してください。

アピオンE 500倍を加用すると腐りやクラッキングの発生軽減に効果があります。

※ベフラン液剤25について、令和7年10月末で登録失効になりますのでご注意ください。

●ゆら早生収穫後の樹勢回復

収穫後は、樹勢回復のため早急に施肥し、尿素500倍等の窒素系の液肥を10日間隔で2～3回以上と灌水（降雨がない場合）を行い、翌年の

着果確保に努めてください。

●温州みかんの秋肥の施用

本年、着果量が少ない樹は、次年度は反対に着花が多くなると思われます。

したがって樹勢低下防止と貯蔵養分を蓄えるために秋肥を11月中旬までを目安として降雨前までに施肥してください。(柑橘施肥基準を参照) 11月中旬以降になると地温が下がり、施肥しても樹への吸収量が低下します。

●中晩柑の秋肥施用

果実肥大、貯蔵性向上、樹勢維持回復のため柑橘施肥基準を参考に施肥してください。

野菜



ミニトマト類

キャロルフ、アイコ

8月定植では、既に収穫が始まっています。

高糖度ミニトマトを安定的に収穫するためには、草勢の安定化が最も重要となります。

草勢を良く観察し、摘花や摘果作業を中心に草勢の安定化を目指してください。

「摘果(花)に勝る追肥なし」がキャロルフ、アイコの基本です。

●黄化葉巻病対策

予防対策が重要です。再度基本的な事項を確認してください。

・被覆している防虫ネットに破れている部分はありませんか？

・ハウスに隙間はありませんか？

・ハウス周囲やハウス内の除草は出来ていますか？

・予防的な薬剤散布は実施できていますか？

※コナジラミ類の発生予測として、ハウス開口部やハウス内に粘着シートを設置し発生状況の観察を行い、コナジラミ類の発生が確認されたら、直ちに薬剤散布を実施してください。

※発病株は株元で切断し、ゴミ袋等へ入れハウス外へ持ち出すなど、適正に処理してください。

●交配作業

マルハナバチ飼養にあたっては、散布した薬剤影響日数を必ず確認してください。

△注意Vセイヨウオオマルハナバチは外来生物法で特定外来生物に指定されており飼養や運搬等に厳しい規制がありますので注意してください。また、飼養に当たっては環境省の許可を得る必要があります。詳しくは、各営農指導員までお問い合わせください。

トマトーンを使用する場合は、100〜150倍液で花にたっぷりかけ、確実に結実させてください。

●光の確保

葉にしっかりと光を当てることを重点に考え栽培管理を行ってください。

●病害虫防除

コナジラミ類、葉かび病、うどんこ病の発生に注意してください。

ピーマン

ピーマンは生育初期の草勢が大切です。出来るだけ徒長させず、年明けまでに成長点を誘引の横線まで到達させ、節数を確保するため草勢の維持に努めてください。

●追肥

マルチ被覆前にVSゆめ(9袋/10a)を施用してください。

●灌水

多量灌水、窒素成分の高い液肥は根痛みの原因となりますので、少量灌水で草勢の状態に合わせて間隔と量を調整してください。

●病害虫防除

夜温が下がり加温機も稼働するため、ハウス内の空気が乾燥気味となり、うどんこ病の発生が心配されますので、必ず予防防除に努めてください。硫黄くん煙器を設置できないハウスでは、置き型しなものの併用をおすすめします。

さらに、温暖化の影響により、ハスモンヨトウ、オオタバコガの発生が非常に多く、長期発生も懸念されます。系統の異なる農薬を組み合わせて、初期防除に努めてください。コンフューザーV(文信かく乱用性フェロモン剤)100〜200本/10aの設置も効果的です。

さらに物理的防除として、粘着資材を成長点や株元付近へ設置してください。

「天敵導入園防除例」

今後引き続きアブラムシ類、ヨトウムシ類、コナカイガラムシの発生に注意し、初期防除努めましょう。

またコナカイガラムシは、ハウス外の雑草に寄生し、ハウス内に侵入します。ハウス外も除草作業をしっかり行い、除草剤や農薬散布が効果的です。ハウス内で確認した場合は、寄生した部位を除去し、袋等に入れハウスから出し処分してください。

●保温管理

冬が近づくにつれ、気温変化が激しくなりますので、早めに二重被覆資材や、加温機のダクト等を準備しましょう。

キュウリ

9月定植においては、収穫が本格的になってきます。順調な生育下においては、10節以降中段付近の子枝は2節止めとし、上段は1節止めとしてください。

草勢によって(子枝の発生が弱い場合)は芯を残し、半放任としてください。主枝の摘芯は18〜20節で行ってください。また、混み合っている部分を中心に摘葉を行い、特に伸びず枝がある場合は、周囲の枝を先に摘葉しましょう。

収穫開始頃から灌水を増やし、草勢によっては追肥も始めてください。灌水は、草勢、着果数、天候等を見ながら行ってください。低温期の午後の灌水は、地温を下げ生育にマイナスとなるので避けましょう。

ブロッコリー

●追肥

追肥は2回行います。

1回目

生育促進を目的に、活着後に施用してください。

2回目

花蕾肥大の促進を目的に、頂花蕾が見えだした頃に施用してください。

追肥例（1回目・2回目）

NK化成 40kg（10a当たり）

※年内収穫のものについては、草勢に応じて施肥量・回数を変えてください。

土寄せ

第1回の追肥時に除草を兼ねて土寄せを行います。

土寄せの目的

- ①倒伏を防止します。
- ②草勢を旺盛にします。
- ③土壌の物理性を改善します。
- ④株元に肥料分を与えます。

●排水対策

降雨による根ぐされ防止のため高畝にし、排水対策を徹底してください。

●防除

病気では黒腐病や軟腐病、べと病、また害虫ではアオムシ、ヨトウムシ、コナガ等の適期防除に努めましょう。

豆類

抑制ウスイ

霜が早い場所では霜害で莢が白くなりますので、11月中旬を目処に生

ブロッコリー防除薬剤

病害虫	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用方法	使用回数
アオムシ コナガ ヨトウムシ	グレースィア 乳剤	2,000 倍	収穫 7 日前まで	散布	2 回以内
べと病	フォリオ ゴールド	1000 倍	収穫 14 日前まで (出蕾前但し、収穫 21 日前まで)	散布	ダコニール 1000 と 合計 2 回以内

ブロッコリー除草剤

薬剤名	適用雑草名	使用薬量	使用時期	使用方法	総使用回数
アグロマックス水和剤	畑地一年生雑草（キク科・カヤツリグサ科を除く）	200～300g ／10a	定植後雑草発生前（但しブロッコリーは、定植 14 日後まで）	全面土壌 散布	1 回

※薬害を生じる場合がありますので、詳しくは各営農指導員にお問い合わせください。

長点の摘心をお勧めします。

ハウスウスイ

基本的に、12月まで発生する側枝は除去してください。1m当たり20本程度になる様整枝してください。

キヌサヤ

整枝本数が20～25本になるように整枝し、倒伏させないよう支柱にネットを張ってください。

また、整枝した場合は、収穫サイクルが早くなりますので収穫遅れにご注意ください。

草勢調整

開花数が多くなると着莢が多くな

り、草勢の低下が懸念されますので、適期収穫、追肥を施用し草勢の維持に努めてください。

にんにく

一発型肥料でない方は、初期生育を良くするために年内追肥が遅れないようにし、冬期乾燥が続く場合は畝間灌水を行い、肥効を早めてください。

土入れは、発芽後本葉が展開するまでに実施し、被覆を10cm以上行い、停滯水は根を痛めるので畝の高さは25cm以上に上げてください。除草剤は土壌水分が十分あるうちに、雑草が発生する前までに散布するようにしてください。

また、発芽後、葉が展開するまでにマルチ被覆を行い、遅くなると収穫時期が遅れるので、出来るだけ11月末までに被覆してください。除草剤を散布してすぐに被覆をすると薬害を生じる恐れがある為、約20～30日経過してから被覆するように注意してください。

花き類全般



遮光ネットを外す際やハウス被覆資材などを被覆する際は作物にかかるとレスを軽減するため、曇天や夕方に行うなど天候に注意してください。ビニール被覆を行った後は日中の換気を十分に行い、ハウス内の急激な環境変化を起こさないよう努

めてください。

スターチス

曲がつたものや、短くて出荷物にならない花芽は整理を行い、採花の際は薬剤がかかりやすいよう高めに打ってください。病害虫については、褐斑病は年内に防除を行うことで春先の発生を抑制します。灰色かび病は定期的に予防防除を行ってください。

また、アブラムシ、ヨトウムシ、ホコリダニの発生に注意し予防防除に努めてください。

カスミソウ

被覆後は良品質のカスミソウを作る大切な時期です。伸長後も枝の充実の為、適度に灌水が必要ですが、開花時期の灌水は花首の徒長につながりますので大量の灌水には注意してください。電照については開花期までは続けることと徒長等品質低下に影響しますので発蕾期には消灯してください。

また、近年ヨトウムシ類の発生が多くなっていますので適期防除に努めてください。

千両

実の肥大につれての倒伏、曲がり防止のため誘引等を行い、着果枝の上位節から発生するわき芽の整理を行ってください。また、薬剤散布を行う際は薬液の残りやすい水和剤の使用には十分に注意してください。